

実践団体情報 (1 団体あたり 1 回だけ記入する内容です)

必要に応じてセル (表の枠) の高さを調整していただいて構いません

記入日	西暦 2020 年 12 月 23 日 (2019 年度のチャレンジプラン)
実践団体名	京都市立正親小学校
代表者名	校長 辻元 博子
プラン全体のタイトル	守るぞ正親のまち ぼくらジュニア防災隊 もしも大災害が起こったら, ぼくは生きる, みんなを守る
電話番号	075-451-0091
メールアドレス	h-tsujimoto@edu.city.kyoto.jp
実践団体の説明 団体の来歴や特徴などを書いてください	京都市立正親小学校 5 年生を中心とした取組 京都市の番組小学校, 今年 150 周年を迎えました。路地が たくさんある密集市街地での防災に取り組みます。
所属メンバー 団体のメンバーについてお名前やご所属, 役割 などを差し支えない範囲で書いてください	正親小学校 校長 辻元 博子 5 年担任 葉武 佐加恵 その他教職員
活動地域	京都市立正親小学校の校区
活動開始時期・結成時期	2017 年に開始
過去の活動履歴・受賞歴	
プラン全体の概要	本団体の取組は小学校の 5 年生の総合的な学習の時間での取組である。本校の存在する場所が京都の市街地で古くからの町家が立ち並び, 4 m 以下の路地が 70 以上あり, そのほとんどが袋小路になっている密集市街地である。地域の役員さんも防災に重きを置いている。そこで本単元は防災をテーマにして地域を調べ, その課題に気付き, 自分たちも役に立つことをしたいと考え実践する単元である。それによって社会参画し, さらに地域が好きになってほしいと考える。 ステージ① 「災害・防災ってなんだろう。」 ○区役所の方に話を聞こう…自助・共助・公助 ○消防団の方の話を聞こう…備え・訓練 ○AED や消火器が使えるようになろう。 ○持ち出しに何を入れるか考えよう。



ステージ② 「防災の方法を探究しよう。」

- 防災に強い町や、家ってどんなのだろう。
- 通学路が安全か確かめに行こう。
- 地域の人と一緒に町歩きをして安全かどうかを確かめよう。
- 防災マップを作ろう。
- 防災かまどを作ろう。

ステージ③ 「もしも大きな地震が起こったら…」を提案しよう

もしも地震が起こったら、どうすればよいのだろう。

- もしも、地震が起こったら、何が使えるだろう。
- お年寄り体験をして災害弱者について考えよう。
- 何月何日 何時に ○○の状況の時に地震が起こったら…どんな行動をとればよいのだろう。
- 150年記念誌に載せて、みんなに知らせよう。

ステージ④ 守れ、正親。みんなの命を守るため、できることを実践だ。

- 防災について考えたことを低学年や地域の人・保護者に伝えよう。

・防災フェスタを計画・実践しよう。

(すごろく・トランプ・迷路)

- ・プロジェクトXに参加して伝えよう。
- ・自分たちで作ったかまどを使って炊き出しをして地域の人にふるまって防災の大切さを伝えよう。

- 5年生が主催する避難訓練をしよう。

ステージ⑤ 子ども防災隊発進

- 自分たちの成長を振り返ろう。
- もしも、二日後に大地震があることが分ったら、今、何をすればいいだろう。
- 今後に生かせることを考える。



プランの年間活動記録

	プランの立案と調整	活動準備	実践活動
4月	プラン立案	ステージ1の人と調整	
5月		かまど修理の打ち合わせ	区役所・消防署分団・竈作成
6月		ステージ2の人と調整	通学路調査・町歩き
7月			防災マップ作り
8月	二学期分プラン練り直し	ステージ3の人と調整	
9月			防災教室
10月	中間発表		もしも…を考える
11月			防災新聞作成
12月	ミッションX計画	ミッションX打ち合わせ	
1月	防災フェスタ計画	防災フェスタ準備	ミッションX実施
2月	シェイクアウト計画	シェイクアウト準備	防災フェスタ実施
3月	まとめ・実践の振り返り		シェイクアウト実践

プラン全体の反省点・課題・感想	○実際の被災者による講演をぜひ来年は実現したい。 ○高齢者体験を補足したため子どもたちの思考が変化した。 ○地元の問題点を知り、自分たちで何とかしようとする様々な方策を考え、それを実践することで、社会参画することができ、自己肯定感や自己有用感を味わうことができた。さらに、今後の自分たちのすべきことにまで目を向けていくことができた。地元は応援だけでなく、逆に刺激を受けてくれたことは成果であるとする。 ○ミッションXを企画し、保護者・児童・幼児などだけでなく地域の住民も参加してもらうことで、地域の路地がたくさんあり、一つ一つに名前がついていること、奥に通り抜けられるドアや路地の入口の補強などの防災の対策など努力されていること、さらには自分たちの命は、自分たちで守らなければいけないことなどを伝えられたことは大いなる成果である。
-----------------	---